

研究概要

1. 研究名称 または課題名テーマ等

高齢保存期 CKD 患者における非監視下での在宅運動プログラムが身体機能に及ぼす効果

2. 研究責任者(当院)

所属：リハビリテーション室

氏名：田畑 吾樹

共同研究の場合は代表機関 及び 代表者名

機関名：なし

代表名：なし

3. 分担研究者

所属：腎臓内科

氏名：藤井隆之

所属：リハビリテーション室

氏名：白井智裕、加藤木丈英、三嶽侑哉

4. 研究対象者

2022年04月01日～2026年03月30日の間に、聖隷佐倉市民病院において、慢性腎臓病の教育目的で入院する方で、且つ同意書に署名された方。

5. 研究の必要性

高齢な保存期 CKD 患者は、身体機能が低値であり、身体機能の低下は生命予後や心血管疾患の発症に関連すると報告されている。高齢保存期 CKD 患者の身体機能の改善には運動療法が重要である可能性が考えられるが、先行研究の対象者は主に中年者であり、高齢者においてはエビデンスが不足している。さらに、監視下運動は、運動の参加率が低く、対象者が制限されている可能性があり、特に身体機能が低値である高齢な保存期 CKD 患者は、自宅で実施可能である非監視下運動が有効であると考えられる。高齢保存期 CKD 患者における非監視下運動が身体機能に及ぼす効果を明らかにすることで、と身体機能の改善を目的とした、より効果的な介入方法の提案に繋がると考える。

6. 研究等によって生ずる個人への影響と医学上の貢献の予測

研究等によって生ずる個人の影響は、身体機能の測定と質問紙による評価を行うこと、介入群に関しては、在宅での運動プログラムの実施とその回数の記録すること、活動量計を装着することで時間的、身体的、精神的負担がかかる可能性が考えられる。対策として、研究途中であっても、対象者が心身のストレスを感じた場合、いつでも研究離脱が可能である事について研究依頼書に記載し、口頭でも十分説明する。また、身体機能の測定と在宅での運動プログラムの指導の実施前、実施中、実施後で体調確認、バイタルサインを測定し、体調不良や何らかの異常があれば実施を中止する。中止後は主治医（不在の場合はその日の緊急対応医師）に連絡し、指示を仰ぐ。また、中止に伴い医療的処置が必要となった場合、研究者が責任をもって加入している学生保険や理学療法士保険から支払いを行う。

本研究で予測される医学上の貢献の予測は、高齢保存期 CKD 患者の身体機能の低下の改善に有効な介入方法の確立に繋がることが考えられる。

7. 対象者、関係者等からの問合せ先(当院)

連絡先番号：043-486-1151（代表）

担当者氏名：田畑吾樹

対応時間：8:30～17:00

※ご注意

対象者とは、本研究に参加された方です。
お問合せは、本研究に参加された方と
研究関係者のみで、その他の方へのご対応
はできませんので、予めご了承願います。